

比台風死者1万人の恐れ

交通・通信遮断 高潮で被害拡大

【マニラ＝鈴木隆弘】猛烈な台風30号が直撃したフィリピン中部は11日、台風通過から3日が過ぎ、甚大な被害の実態が明らかになってきた。最も被害が大きかった中部レイテ島（人口約217万人）の警察幹部は10日、同島での死者数が1万人に達する恐れがあると語った。

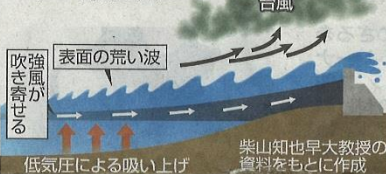
〈関連記事13面〉

最大瞬間風速90メートルに達した台風30号は、8日早朝から正午にかけてフィリピン中部を東から西に横断。その後や勢力を弱めながら南シナ海を横断し、11日朝ベトナム北部に上陸した。ベトナム政府は約60万人に避難を命じた。

台風30号の直撃で、家屋が倒壊し、がれきが散乱するフィリピンのレイテ島タクロバン（10日、AP）



強い台風で大きな高潮が発生



レイテ島風速90メートル

フィリピン中部のレイテ島などで台風30号の大きな被害が出た最大理由は、記録的な台風が生み出した大規模な高潮だ。気象庁によると、台風30号は中心気圧が895ヘクトパスカルと非常に低い。米航空宇宙局（NASA）によると、90メートルに達する風速などの条件から、米国のハリケーン15に匹敵するといふ。建物の全壊や高潮の大きな被害が出るレベルだ。NASAは「上陸した台風で記録的な強さ」とみている。

広島大学の山下隆男教授（環境科学）は、台風30号の低気圧と強風が生み出した高潮は5メートルに達したとみる。伊勢湾台風（1959年）の高潮を大きく上回る規模だといふ。早稲田大学の柴山知也教授（海岸工学）は、高潮が高くなる条件として、①悪天候による表面の荒波②低気圧による

本部は11日午前6時（日本時間同7時）までに255人の死亡を確認、約970万人が被災したと発表したが、レイテ島に隣接するサマル島だけで3000人が死亡し、2000人が行方不明との情報もあり、犠牲者数は膨らむ可能性がある。被災地に向かう交通手段や通信は遮断されており、被害の全体像把握にはなお時間がかかりそうだ。外務省によると、レイテ島には約100人、サマル島には約20人の在留邦人がおり、在フィリピン日本大使館が安否確認を急いでいる。11日正午現在、邦人が被害に遭ったとの情報は確認されていない。

フィリピンでは、台風により、暴風雨に加えて高潮も発生し、レイテ島の中心都市タクロバンなど沿岸一帯の街では家屋が倒壊したり、船が陸に乗り上げたりするなど、津波に見舞われたような被害が相次いだ。犠牲者の多くは、溺死したり、倒壊した建物の下敷きになって圧死したりしたとみられている。

フィリピン政府は、軍や警察を被災地に派遣。国際援助団体なども救援活動を開始しているが、現地では食料や飲料水などの不足が深刻となっている。治安の悪化も伝えられており、ロイヤル通信などによると、タクロバンでは、一部の商店で略奪が起きたほか、救物資を運ぶトラックが襲われた。アキノ大統領は、同日を視察し、治安部隊3000人を緊急派遣する方針を表明した。

日本医療チーム25人が午後出発

菅官房長官は11日午前、記者会見で、猛烈な台風30号で多数の死傷者が出たフィリピンの要請を踏まえ、国際緊急援助隊・医療チーム25人を派遣すると発表した。チームは同日午後、エヤーター機で成田空港から出発する。

吸い上げ③強風による吹き寄せ——を挙げ、さらに遠浅のレイテ島の地形が波の勢いを強めた結果、沿岸のタクロバンなどで大きな被害が出たとみている。柴山教授は「地球温暖化などの影響で、台風がこれまで想定できなかった動きや強さになることが増えている」と話している。